

R7. 7. 11 (金) 実施

試験問題 令和7年度 疾病論II 肝臓疾患 (永田先生)

問題1. 肝臓の構造・機能について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 肝のグリソン鞘には中心静脈が存在する。
2. 肝臓ではアルブミンが産生される。✓
3. 肝臓ではアンモニアが産生される。
4. 肝臓ではコレステロールが産生される。✓
5. 肝臓ではヘモグロビンが分解される。

問題2. 肝炎ウイルスについて正しいのはどれか。2つ選べ。

1. A型肝炎ウイルスはカキやハマグリに感染する。✓
2. B型肝炎ウイルスは猪や鹿に感染する。
3. C型肝炎ウイルスは輸血では感染しない。
4. C型肝炎ウイルスは体液では感染しない。
5. E型肝炎ウイルスは肝硬変の原因とはならない。

問題3. ウイルス性肝炎について正しいものはどれか。2つ選べ。

1. A型肝炎は慢性化しない。✓
2. B型肝炎の感染予防にはワクチン接種が有用である。✓
3. B型肝炎は抗ウイルス剤による完治が可能である。
4. C型慢性肝炎は肝がんの原因にはならない。
5. E型肝炎の感染予防はワクチン接種が有用である。

問題4. 肝硬変について正しいものはどれか。2つ選べ。

1. 肝臓内の線維が減少する。✓
2. 黄疸の有無の診断には眼球結膜の観察が有用である。✓
3. 肝機能低下に伴う症状が出現した状態を非代償性肝硬変と診断する。

4. 肝硬変の治療には排便コントロールは有用でない。
5. 非代償性肝硬変の治療には絶対安静が有用である。

問題 5. 次の中で正しいものはどれか。2つ選べ。

1. 自己免疫性肝炎は中年男性に発症することが多い。
2. 自己免疫性肝炎の診断には抗核抗体は有用でない。
3. 自己免疫性肝炎では他の自己免疫疾患の合併はみられない。
4. 自己免疫性肝炎の治療には副腎皮質ホルモンが有効である。
5. 原発性胆汁性胆管炎では抗ミトコンドリア抗体が陽性となることが多い。

問題 6. 門脈圧亢進症について正しいものはどれか。2つ選べ。

1. 門脈圧亢進症の原因は肝硬変が最も多い。
2. 門脈圧の程度と脾臓のサイズは相関しない。
3. 食道静脈瘤の診断には MRI 検査が有用である。
4. 食道静脈瘤の治療には内視鏡治療が有効である。
5. 肝硬変患者の血小板減少には血小板輸血は無効である。

問題 7. 急性肝不全について正しいものはどれか。2つ選べ。

1. 急性肝不全は初発症状出現から 4 週以内に肝不全を発症したものをいう。
2. 急性肝不全の原因はウイルス性が最も多い。
3. 初発症状出現から 7 日以内に昏睡度 II 度以上の肝性脳症が出現したものを、昏睡型—急性型と分類する。
4. 急性肝不全の急性型は亜急性型より予後が良好である。
5. 急性肝不全の生存率は 80-90% である。

問題 8. 急性肝不全について正しいものはどれか。2つ選べ。

1. 安静度はなるべく安静を保持し、運動はできる限り制限する。
2. 食事は高タンパク食が有用である。✓
3. 肝性脳症には抗菌薬は無効である。
4. 腹水の治療にはアルブミン製剤が有用である。
5. 肝性脳症には分岐鎖アミノ酸（BCAA）製剤を投与する。

問題 9. チャイルド-ピュー(Child-Pugh)のスコアに含まれないものはどれか。1つ選べ。

1. 腹水 ✓
2. 脳症
3. 血清アルブミン値
4. フィッシャー比
5. プロトロンビン時間

問題 10. 原発性肝がんについて正しいものはどれか。2つ選べ。

1. 肝細胞がんの診断には CEA が有用である。
2. 造影 CT 検査では肝細胞がんは動脈相で濃染される。
3. 肝がんの5年生存率は約 80%である。✓
4. 肝がんの治療には腹腔鏡下手術は適応がない。
5. 肝がんの治療適応の判断には肝予備能が重要である。

問題 4. 肝硬変について正しいものはどれか。2つ選べ。

1. 肝臓内の総血管が減少する。
2. 黄疸の有無の診断には胆球結膜の観察が有用である。
3. 肝機能低下に伴う症状が出現した状態を非代償性肝硬変と診断する。

疾病論 2 肝炎・肝硬変 (永田先生)

令和 7 年 7 月 11 日 (金) 実施

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
2、4	1、5	1、2	1、2	1、4

-2

-2

問 6	問 7	問 8	問 9	問 1 0
1、4	3、4	4、5	4	1、2

-2

-2

22

点